

目に見えないものを測定する： QOL、患者報告アウトカム



鈴鴨 よしみ 教授

立命館大学 総合科学技術研究機構
医療経済評価・意思決定支援ユニット (CHEERS)



4.10²⁰²⁶ [金]
17:00 ▶ 18:00

大学院保健科学研究院
C棟 6F 大会議室

対面での開催です

対象：研究者、大学院生

※事前申込みは不要です。当日会場へお越しください。

本講演では、QOL（生活の質）などの「目に見えない概念」をどのように評価するか、そして医療においてどう活用するかについて解説する。従来の臨床指標のみでは、症状の苦痛や日常生活への影響といった患者の実感を十分に捉えられず、医療者と患者の評価の乖離が生じる。このため、患者視点に基づくアウトカム評価が、治療効果の適切な把握や患者中心の意思決定、ケアの質向上に不可欠となっている。QOLは多次元かつ主観的概念であり、標準化された尺度により信頼性・妥当性を担保して測定される。尺度の選択や評価の実際、結果の解釈、臨床・研究での活用方法、ePROの展開、等について論じるとともに、測定に伴う課題と適切な運用の重要性を提示する。

▶▶ご来場の方へ

保健科学研究院のエレベーターより6階へお越しください。



正面玄関を入り、右に進みます。
売店を通過した左手にエレベーターがあります。

主催：
北海道大学大学院保健科学研究院 公開講座委員会

お問合せ：
北海道大学大学院保健科学研究院 広報室
pr-office(at)hs.hokudai.ac.jp